

学校コード F114310104794

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

神奈川工科大学 健康医療科学部 臨床工学科

【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人幾徳学園
令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 経営管理本部 総務課

職名・氏名 ソウムフチョウ カジウラ ジュンイチ
総務部長・梶浦 潤一

電話番号 046-241-1214

(夜間)

e-mail soumu@kait.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

健康医療科学部

<臨床工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	20
5. 教員組織の状況	21
6. 附帯事項等に対する履行状況等	43
7. その他全般的事項	44

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人幾徳学園

(2) 大学名

神奈川工科大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒243-0292

神奈川県厚木市下荻野1030

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長 (理事長代行)	(タニムラ コウジ) 谷村 浩二 (平成31年4月)	(ナカベ ケンイチロウ) 中部 謙一郎 (令和2年9月)	病気療養中であった理事長が回復し、職務に復帰したため(令和2年9月2日) (3)
学長	(コミヤ カズミ) 小宮 一三 (平成21年4月)		
学部長	(マジマ マサタカ) 馬嶋 正隆 (令和2年4月)		
学科長等	(マツダ ヤスヒロ) 松田 康広 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
健康医療科学部 臨床工学科 学士(工学)	工学関係	4年	40人	2年次 人 3年次 人 4年次 人	160人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A	入学定員	40 (-) [-]	40 (-) [-]	40 (-) [-]	40 (-) [-]	40 (-) [-]	40 (-) [-]	40 (-) [-]	40 (-) [-]	40 (-) [-]	40 (-) [-]	40 (-) [-]	40 (-) [-]	0.91倍	-	倍	倍		
	志願者数	240 (-) [-]	- (-) [-]	303 (-) [-]	- (-) [-]	310 (-) [-]	- (-) [-]	257 (-) [-]	- (-) [-]	190 (-) [-]	- (-) [-]	151 (-) [-]	- (-) [-]						
	受験者数	235 (-) [-]	- (-) [-]	294 (-) [-]	- (-) [-]	295 (-) [-]	- (-) [-]	250 (-) [-]	- (-) [-]	189 (-) [-]	- (-) [-]	149 (-) [-]	- (-) [-]						
	合格者数	114 (-) [-]	- (-) [-]	134 (-) [-]	- (-) [-]	161 (-) [-]	- (-) [-]	172 (-) [-]	- (-) [-]	155 (-) [-]	- (-) [-]	134 (-) [-]	- (-) [-]						
B	入学者数	39 (-) [-]	- (-) [-]	37 (-) [-]	- (-) [-]	35 (-) [-]	- (-) [-]	42 (-) [-]	- (-) [-]	36 (-) [-]	- (-) [-]	31 (-) [-]	- (-) [-]						
	入学定員超過率 B/A	0.97		0.92		0.87		1.05		0.90		0.77							

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	35 [-] (-)	- [-] (-)	42 [-] (-)	- [-] (-)	36 [-] (-)	- [-] (-)	31 [-] (-)	- [-] (-)	令和5年度 3年次=令和3年度入学生36名+令和2年度入学生4名
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	33 [-] (-)	- [-] (-)	40 [-] (-)	- [-] (-)	36 [-] (1)	- [-] (-)	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	31 [-] (-)	- [-] (-)	40 [-] (4)	- [-] (-)	
4年次	/				[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	25 [-] (-)	- [-] (-)			
計			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	35 [-] (-)	75 [-] (-)	107 [-] (-)	132 [-] (4)			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	33 人	2 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	2 人	0 人	学業不振(1人)、他の教育機関への転学(1人)
令和3年度	71 人	4 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	2 人	0 人	就学意欲の喪失(1人)、他の教育機関への転学(1人)
			令和3年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、就職(1人)
令和4年度	107 人	6 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	2 人	0 人	就職(1人)、学業不振(1人)
			令和3年度	3 人	0 人	学業不振(2人)、ミスマッチ(1人)
			令和4年度	1 人	0 人	他の教育機関への転学(1人)
令和5年度	132 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合計		12 人		12 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{33} = \boxed{6.06} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{71} = \boxed{5.63} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{107} = \boxed{5.6} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{132} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<健康医療科学部 臨床工学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基盤教育	スタディスキル	1前	1									兼2
	生命倫理	3前後	2									兼1
	暮らしの経済	1後・2前後	2									兼2
	日本国憲法	1後・2前後	2									兼3
	日本近現代史	1後・2前後	2									兼1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後	2									兼1
	アジアの文化と社会	1後・2前後	2									兼1
	少子高齢化と社会問題	1後・2前後	2									兼1
	マスメディア論	1後・2前後	2									兼2
	宗教と倫理	1後・2前後	2									兼1
	比較文化論	1後・2前後	2									兼1
	芸術論	1後・2前後	2									兼1
	社会参加とボランティア	1後・2前後	2									兼1
	国際化と異文化理解	1後・2前後	2									兼2
	現代社会の心理学	1後・2前後	2									兼3
	環境論	1後・2前後	2									兼2
	人文社会科学演習	3前後	2									兼3
	哲学	2後・3前後	2									兼2
	倫理学	2後・3前後	2									兼1
	文学	2後・3前後	2									兼2
	教育学	2後・3前後	2									兼2
	心理学	2後・3前後	2									兼3
	政治学	2後・3前後	2									兼2
	経済学	2後・3前後	2									兼3
	法学	2後・3前後	2									兼2
	社会学	2後・3前後	2									兼2
	企業と経営	2後・3前後	2									兼1
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1									兼2
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1									兼1
	レクリエーションスポーツ	2前	1									兼1
	生涯スポーツ実技	2後	1									兼1
	学外スポーツ	1-2-3-4	1									兼1
	英語Ⅰ	1前	1									兼1
	英語Ⅱ	1前後	1									兼3
	英語Ⅲ	1前後・2前	1									兼9
	英語Ⅳ	1後・2前後	1									兼9
	英語Ⅴ	2前後	1									兼5
	英語Ⅵ	2後	1									兼2
	英会話Ⅰ	1前	1									兼2
	英会話Ⅱ	1後	1									兼2
総合英語演習	1前後	1									兼1	
TOEICⅠ	2後・3前	1									兼2	
TOEICⅡ	3前後	1									兼2	
文章表現技術	1後・2前	2									兼6	
プレゼンテーション技術	2前後	2									兼5	
技術文章の書き方	3前後	2									兼1	
身の回りの数学	1-2-3	2									兼2	
実感する科学Ⅰ	1-2-3	2									兼1	
情報リテラシー	1前	2									兼2	
小計(49科目)	-	3	77		0	0	0	0	0	0	兼64	

【令和5年度】 旧カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基盤教育	スタディスキル (未開講)	1前	1									兼0
	生命倫理	3前後	2									兼1
	暮らしの経済	1後・2前後	2									兼2
	日本国憲法	1後・2前後	2									兼3
	日本近現代史	1後・2前後	2									兼2
	ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後	2									兼1
	アジアの文化と社会	1後・2前後	2									兼1
	少子高齢化と社会問題	1後・2前後	2									兼1
	マスメディア論	1後・2前後	2									兼2
	宗教と倫理	1後・2前後	2									兼1
	比較文化論	1後・2前後	2									兼1
	芸術論 (未開講)	1後・2前後	2									兼0
	社会参加とボランティア	1後・2前後	2									兼1
	国際化と異文化理解	1後・2前後	2									兼1
	現代社会の心理学	1後・2前後	2									兼3
	環境論	1後・2前後	2									兼1
	人文社会科学演習	3前後	2									兼3
	哲学	2後・3前後	2									兼2
	倫理学	2後・3前後	2									兼1
	文学	2後・3前後	2									兼2
	教育学	2後・3前後	2									兼2
	心理学	2後・3前後	2									兼3
	政治学	2後・3前後	2									兼2
	経済学	2後・3前後	2									兼2
	法学	2後・3前後	2									兼3
	社会学	2後・3前後	2									兼2
	企業と経営	2後・3前後	2									兼1
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ (未開講)	1前	1									兼0
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ (未開講)	1後	1									兼0
	レクリエーションスポーツ	2前	1									兼1
	生涯スポーツ実技	2後	1									兼2
	学外スポーツ	1-2-3-4	1									兼1
	英語Ⅰ (未開講)	1前	1									兼0
	英語Ⅱ (未開講)	1前後	1									兼0
	英語Ⅲ	1前後・2前	1									兼6
	英語Ⅳ	1後・2前後	1									兼5
	英語Ⅴ	2前後	1									兼7
	英語Ⅵ	2後	1									兼4
	英会話Ⅰ	1前	1									兼2
	英会話Ⅱ	1後	1									兼2
総合英語演習	1前後	1									兼1	
TOEICⅠ	2後・3前	1									兼1	
TOEICⅡ	3前後	1									兼2	
文章表現技術	1後・2前	2									兼6	
プレゼンテーション技術	2前後	2									兼7	
技術文章の書き方	3前後	2									兼1	
身の回りの数学 (未開講)	1-2-3	2									兼0	
実感する科学Ⅰ (未開講)	1-2-3	2					0				兼0	
情報リテラシー (未開講)	1前	2									兼0	
小計(49科目)	-	3	77		0	0	0	0	0	0	兼48	

【認可時又は届出時】

【令和5年度】 旧カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医学概論	1前	2			1						
	解剖学	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	2			6	2		2			
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	生理学	1後	2			1						
	病理学	2前	2			1						
	生化学	2前	2									兼1
	免疫学	2後	2									兼1
	薬理学	2後	2									兼1
	看護学概論	2前	2									兼9
	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	1前	2			1						
	電気工学Ⅱ（通電現象、電磁気学）	1後	2			1						
	電気工学実習	1前	1			1						兼1
	電子工学Ⅰ（基礎）	2前	2				1					
	電子工学Ⅱ（発展）	2後	2				1					
	電子工学実習	2前	1				1					兼1
	医用電気電子工学実習	3前		1			1					兼1
	機械工学	1後	2			1						
	機械工学演習	1後	1			1						
	材料工学	2後	2			1	1					兼4
計測工学	2前	2			1							
応用数学	1前	2			1							
応用数学演習	1前	1			1							
医療統計学	2前		1		1							
システム制御工学Ⅰ（基礎）	3前	2			1							
システム制御工学Ⅱ（発展）	3後	2			1							
システム制御工学実習	3前	1			1							
情報処理工学	1後	2			1							
情報処理工学実習	1後	1			1							
医療情報セキュリティ	3前		2								兼1	
小計（30科目）	—	48	4		8	2		2			兼21	
医用工学概論	1前	2			1							
生体計測機器学Ⅰ（基礎）	1後	2			1							
生体計測機器学Ⅱ（発展）	2前	2			1							
生体計測機器学実習	2前	2			7	2		2				
生体物性工学	3後	2			1							
医用機器学概論	1前	2			1							
医用治療機器学Ⅰ（基礎）	2前	2			1							
医用治療機器学Ⅱ（発展）	2後	2						1				
医用治療機器学実習	2後	2			3	1		2			兼3	
放射線概論	3後		2		1							
画像診断機器学	3後		2		1							
生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	2前	2			1							
生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	2後	2			1							
血液浄化装置学	2後	2			1							
呼吸療法装置学	3前	2			1							
体外循環装置学	3前	2						1				
生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	3後	2			2	1		2				
生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	3後	1			2	1		2				
医用機器安全管理学	3前	2			1							
医用機器安全管理学実習	3前	2			1			2				
関係法規	2後	2			1							
人間工学	2後		2		1							
臨床人間工学	3前		2		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医学概論（未開講）	1前	2			0						
	解剖学	1前	2			1						
	基礎医学実習（未開講）	1後	2			0	0		0			
	公衆衛生学（未開講）	1後	2									兼0
	生理学	1後	2			1						
	病理学	2前	2			1						兼4
	生化学	2前	2									兼1
	免疫学	2後	2									兼1
	薬理学	2後	2									兼1
	看護学概論	2前	2									兼8
	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	1前	2			1						
	電気工学Ⅱ（通電現象、電磁気学）	1後	2			1						
	電気工学実習（未開講）	1前	1			0						兼0
	電子工学Ⅰ（基礎）	2前	2				1					
	電子工学Ⅱ（発展）	2後	2				1					
	電子工学実習	2前	1				1					兼1
	医用電気電子工学実習	3前		1			1					兼1
	機械工学（未開講）	1後	2			0						
	機械工学演習	1後	1			1						
	材料工学	2後	2			1	1					兼3
計測工学	2前	2			1							
応用数学（未開講）	1前	2			0							
応用数学演習（未開講）	1前	1			0							
医療統計学	2前		1		1							
システム制御工学Ⅰ（基礎）	3前	2			1							
システム制御工学Ⅱ（発展）	3後	2			1							
システム制御工学実習	3前	1			1							
情報処理工学（未開講）	1後	2			0							
情報処理工学実習	1後	1			1							
医療情報セキュリティ	3前		2								兼1	
小計（30科目）	—	48	4		6	1		0			兼21	
医用工学概論	1前	2			1							
生体計測機器学Ⅰ（基礎）	1後	2			1							
生体計測機器学Ⅱ（発展）	2前	2			1							
生体計測機器学実習	2前	2			6	2		1				
生体物性工学	3後	2			1	0						
医用機器学概論	1前	2			1							
医用治療機器学Ⅰ（基礎）	2前	2				1			1			
医用治療機器学Ⅱ（発展）	2後	2							1			
医用治療機器学実習	2後	2			2	1		1			兼5	
放射線概論	3後		2		0						兼1	
画像診断機器学	3後		2		1							
生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	2前	2			2	1		0				
生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	2後	2			2	1						
血液浄化装置学	2後	2			1							
呼吸療法装置学	3前	2			1	0		1			兼1	
体外循環装置学	3前	2				1		0			兼1	
生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	3後	2			3	1		2			兼6	
生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	3後	1			3	1		2			兼6	
医用機器安全管理学	3前	2			3	1		2			兼1	
医用機器安全管理学実習	3前	2			2	1		2			兼2	
関係法規	2後	2			1							
人間工学	2後		2		1							
臨床人間工学	3前		2		1							

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育	臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）	2後	2								兼3
	臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）	3前	2								兼2
	臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術学等）	3後	2								兼2
	臨床検査概論	3後		2		1					兼1
	救急救命医学	3後		2							兼3
	チーム医療論	4前		2		4	1		2		兼2
	臨床実習	4前	4			3	1		2		
	臨床工学セミナー	4前		2		7	2		2		
	卒業研究	4通	4			7	2		2		
	小計（32科目）	—	51	16		7	2		2		兼13
合計（111科目）	—	102	97		8	2		2		兼98	

卒業要件及び履修方法

共通基盤教育科目：合計21単位
 必修 3単位、
 選択 18単位
 ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群2単位
 ・健康・スポーツ系 1単位
 ・英語基盤系 4単位
 ・言語応用系 3単位
 ・数理情報系 2単位
 専門教育科目：合計103単位
 必修 99単位
 ・専門基礎科目 48単位
 ・専門応用科目 51単位
 選択 4単位
 ・専門基礎科目、専門科目から選択
 任意科目：12単位
 卒業要件：4年以上在籍し、136単位以上修得すること。

臨床工学士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

【令和5年度】 旧カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育	臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）	2後	2							1	兼2
	臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）	3前	2							0	兼2
	臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術学等）	3後	2							0	兼4
	臨床検査概論	3後		2		0					兼1
	救急救命医学	3後		2		1					兼3
	チーム医療論	4前		2		4	1		2		兼3
	臨床実習	4前	4			4	1		2		
	臨床工学セミナー	4前		2		7	1		1		兼3
	卒業研究	4通	4			8	2		2		
	小計（32科目）	—	51	16		8	2		2		兼30
合計（111科目）	—	102	97		8	2		2		兼99	

卒業要件及び履修方法

共通基盤教育科目：合計21単位
 必修 3単位、
 選択 18単位
 ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群2単位
 ・健康・スポーツ系 1単位
 ・英語基盤系 4単位
 ・言語応用系 3単位
 ・数理情報系 2単位
 専門教育科目：合計103単位
 必修 99単位
 ・専門基礎科目 48単位
 ・専門応用科目 51単位
 選択 4単位
 ・専門基礎科目、専門科目から選択
 任意科目：12単位
 卒業要件：4年以上在籍し、136単位以上修得すること。

臨床工学士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基盤教育	スタディスキル	1前	1								兼1
	生命倫理	3前後	2								兼1
	暮らしの経済	1後・2前後	2								兼2
	日本国憲法	1後・2前後	2								兼3
	日本近現代史	1後・2前後	2								兼1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後	2								兼1
	アジアの文化と社会	1後・2前後	2								兼1
	少子高齢化と社会問題	1後・2前後	2								兼1
	マスメディア論	1後・2前後	2								兼2
	宗教と倫理	1後・2前後	2								兼1
	比較文化論	1後・2前後	2								兼1
	芸術論	1後・2前後	2								兼1
	社会参加とボランティア	1後・2前後	2								兼1
	国際化と異文化理解	1後・2前後	2								兼1
	現代社会の心理学	1後・2前後	2								兼3
	環境論	1後・2前後	2								兼2
	人文社会科学演習	3前後	2								兼3
	哲学	2後・3前後	2								兼2
	倫理学	2後・3前後	2								兼1
	文学	2後・3前後	2								兼2
	教育学	2後・3前後	2								兼2
	心理学	2後・3前後	2								兼3
	政治学	2後・3前後	2								兼2
	経済学	2後・3前後	2								兼2
	法学	2後・3前後	2								兼3
	社会学	2後・3前後	2								兼2
	企業と経営	2後・3前後	2								兼1
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1								兼2
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1								兼1
	レクリエーションスポーツ	2前	1								兼1
	生涯スポーツ実技	2後	1								兼1
	学外スポーツ	1-2-3-4	1								兼1
	英語Ⅰ	1前	1								兼1
	英語Ⅱ	1前後	1								兼4
	英語Ⅲ	1前後・2前	1								兼7
	英語Ⅳ	1後・2前後	1								兼5
	英語Ⅴ	2前後	1								兼7
	英語Ⅵ	2後	1								兼4
	英会話Ⅰ	1前	1								兼2
	英会話Ⅱ	1後	1								兼2
	総合英語演習	1前後	1								兼1
	TOEICⅠ	2後・3前	1								兼1
	TOEICⅡ	3前後	1								兼2
	文章表現技術	1後・2前	2								兼5
	プレゼンテーション技術	2前後	2								兼8
	技術文章の書き方	3前後	2								兼1
	身の回りの数学	1-2-3	2								兼1
	実感する科学Ⅰ	1-2-3	2				0				兼1
	情報リテラシー	1前	2								兼2
小計(49科目)	-	3	77			0	0	0	0	0	兼53

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基盤教育	スタディスキル	1前	1								兼1
	生命倫理	3前後	2								兼1
	暮らしの経済	1後・2前後	2								兼2
	日本国憲法	1後・2前後	2								兼2
	日本近現代史	1後・2前後	2								兼1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後	2								兼1
	アジアの文化と社会	1後・2前後	2								兼1
	少子高齢化と社会問題	1後・2前後	2								兼1
	マスメディア論	1後・2前後	2								兼2
	宗教と倫理	1後・2前後	2								兼1
	比較文化論	1後・2前後	2								兼1
	芸術論	1後・2前後	2								兼1
	社会参加とボランティア	1後・2前後	2								兼1
	国際化と異文化理解	1後・2前後	2								兼1
	現代社会の心理学	1後・2前後	2								兼3
	環境論	1後・2前後	2								兼2
	人文社会科学演習	3前後	2								兼3
	哲学	2後・3前後	2								兼2
	倫理学	2後・3前後	2								兼1
	文学	2後・3前後	2								兼2
	教育学	2後・3前後	2								兼2
	心理学	2後・3前後	2								兼3
	政治学	2後・3前後	2								兼2
	経済学	2後・3前後	2								兼2
	法学	2後・3前後	2								兼2
	社会学	2後・3前後	2								兼2
	企業と経営	2後・3前後	2								兼1
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1								兼2
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1								兼1
	レクリエーションスポーツ	2前	1								兼1
	生涯スポーツ実技	2後	1								兼1
	学外スポーツ	1-2-3-4	1								兼1
	英語Ⅰ	1前	1								兼1
	英語Ⅱ	1前後	1								兼4
	英語Ⅲ	1前後・2前	1								兼7
	英語Ⅳ	1後・2前後	1								兼7
	英語Ⅴ	2前後	1								兼6
	英語Ⅵ	2後	1								兼4
	英会話Ⅰ	1前	1								兼2
	英会話Ⅱ	1後	1								兼2
	総合英語演習	1前後	1								兼1
	TOEICⅠ	2後・3前	1								兼1
	TOEICⅡ	3前後	1								兼2
	文章表現技術	1後・2前	2								兼4
	プレゼンテーション技術	2前後	2								兼8
	技術文章の書き方	3前後	2								兼1
	身の回りの数学	1-2-3	2								兼1
	実感する科学Ⅰ	1-2-3	2					1			兼0
	情報リテラシー	1前	2								兼2
小計(49科目)	-	3	77			0	1	0	0	0	兼50

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医学概論	1前	2			1						
	解剖学	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	2			4	2		2			
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	生理学	1後	2			1						兼2
	病理学	2前	2			0						兼1
	生化学	2前	2									兼1
	免疫学	2後	2									兼1
	薬理学	2後	2									兼1
	看護学概論	2前	2									兼8
	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	1前	2			1						
	電気工学Ⅱ（通達現象、電磁気学）	1後	2			1						
	電気工学実習	1前	1			1						兼1
	電子工学Ⅰ（基礎）	2前	2				1					
	電子工学Ⅱ（発展）	2後	2				1					
	電子工学実習	2前	1				1					兼1
	医用電気電子工学実習	3前		1			1					兼1
	機械工学	1後	2			1						
	機械工学演習	1後	1			1						
	材料工学	2後	2			1	1					兼3
	計測工学	2前	2			1						
	応用数学	1前	2			1						
	応用数学演習	1前	1			1						
	医療統計学	2前		1		1						
	システム制御工学Ⅰ（基礎）	3前	2			1						
	システム制御工学Ⅱ（発展）	3後	2			1						
	システム制御工学実習	3前	1			1						
	情報処理工学	1後	2			1						
	情報処理工学実習	1後	1			1						
	医療情報セキュリティ	3前		2								兼1
小計（30科目）	—	48	4		9	2		2			兼21	
医用工学概論	1前	2			1							
生体計測機器学Ⅰ（基礎）	1後	2				1						
生体計測機器学Ⅱ（発展）	2前	2			1							
生体計測機器学実習	2前	2			7	1		2				
生体物性工学	3後	2			1	0						
医用機器学概論	1前	2			1							
医用治療機器学Ⅰ（基礎）	2前	2				1		1				
医用治療機器学Ⅱ（発展）	2後	2						1				
医用治療機器学実習	2後	2			3	1		1			兼4	
放射線概論	3後		2		1							
画像診断機器学	3後		2		1							
生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	2前	2			2	1		0				
生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	2後	2			2	1						
血液浄化装置学	2後	2			1							
呼吸療法装置学	3前	2				0		1			兼1	
体外循環装置学	3前	2						1			兼1	
生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	3後	2			3	1		2			兼6	
生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	3後	1			3	1		2			兼6	
医用機器安全管理学	3前	2			4	1		1			兼1	
医用機器安全管理学実習	3前	2			3	1		1			兼2	
関係法規	2後	2			1							
人間工学	2後		2		1							
臨床人間工学	3前		2		1							

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医学概論	1前	2			1						
	解剖学	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	2				5	1		2		
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	生理学	1後	2			1						
	病理学	2前	2				2					
	生化学	2前	2									兼1
	免疫学	2後	2									兼1
	薬理学	2後	2									兼1
	看護学概論	2前	2									兼9
	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	1前	2			1						
	電気工学Ⅱ（通達現象、電磁気学）	1後	2			1						
	電気工学実習	1前	1			1						兼1
	電子工学Ⅰ（基礎）	2前	2					1				
	電子工学Ⅱ（発展）	2後	2					1				
	電子工学実習	2前	1					1				兼1
	医用電気電子工学実習	3前		1				1				兼1
	機械工学	1後	2					1				
	機械工学演習	1後	1					1				
	材料工学	2後	2					1	1			兼3
	計測工学	2前	2					1				
	応用数学	1前	2					1				
	応用数学演習	1前	1					1				
	医療統計学	2前		1				1				
	システム制御工学Ⅰ（基礎）	3前	2					1				
	システム制御工学Ⅱ（発展）	3後	2					1				
	システム制御工学実習	3前	1					1				
	情報処理工学	1後	2					1				
	情報処理工学実習	1後	1					1				
	医療情報セキュリティ	3前		2								兼1
小計（30科目）	—	48	4		8	1		2			兼20	
医用工学概論	1前	2			1							
生体計測機器学Ⅰ（基礎）	1後	2					1					
生体計測機器学Ⅱ（発展）	2前	2					1					
生体計測機器学実習	2前	2			7	1		2				
生体物性工学	3後	2			1	0						
医用機器学概論	1前	2					1					
医用治療機器学Ⅰ（基礎）	2前	2					0		1			
医用治療機器学Ⅱ（発展）	2後	2							1			
医用治療機器学実習	2後	2					2	0	2		兼3	
放射線概論	3後		2				1					
画像診断機器学	3後		2				1					
生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	2前	2					3	1	2			
生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	2後	2					1					
血液浄化装置学	2後	2					1					
呼吸療法装置学	3前	2					0		1		兼1	
体外循環装置学	3前	2							1		兼1	
生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	3後	2					2	0	2		兼5	
生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	3後	1					2	0	2		兼5	
医用機器安全管理学	3前	2					3	1	1		兼1	
医用機器安全管理学実習	3前	2					3	1	1		兼2	
関係法規	2後	2					1					
人間工学	2後		2				1					
臨床人間工学	3前		2				1					

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育	臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）	2後	2						1		兼3
	臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）	3前	2						0		兼2
	臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術学）	3後	2						0		兼4
	臨床検査概論	3後		2		0					兼1
	救急救命医学	3後		2		1					兼3
	チーム医療論	4前		2		4	1		2		兼3
	臨床実習	4前	4			4	1		2		
	臨床工学セミナー	4前		2		7	1		1		兼3
	卒業研究	4通	4			7	2		2		
	小計（32科目）	-	51	16		9	2		2		兼29
合計（111科目）	-	102	97		9	2		2		兼103	

卒業要件及び履修方法

共通基盤教育科目：合計21単位
 必修 3単位、
 選択 18単位
 ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群2単位
 ・健康・スポーツ系 1単位
 ・英語基盤系 4単位
 ・言語応用系 3単位
 ・数理情報系 2単位
 専門教育科目：合計103単位
 必修 99単位
 ・専門基礎科目 48単位
 ・専門応用科目 51単位
 選択 4単位
 ・専門基礎科目、専門科目から選択
 任意科目：12単位
 卒業要件：4年以上在籍し、136単位以上修得すること。
 臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育	臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）	2後	2			0				1	兼3
	臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）	3前	2							1	兼2
	臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術学）	3後	2							1	兼3
	臨床検査概論	3後		2		0					兼1
	救急救命医学	3後		2		1					兼3
	チーム医療論	4前		2		4	1		2		兼3
	臨床実習	4前	4			3	0		2		
	臨床工学セミナー	4前		2		7	1		1		兼3
	卒業研究	4通	4			7	1		2		
	小計（32科目）	-	51	16		8	1		2		兼26
合計（111科目）	-	102	97		8	2		2		兼95	

卒業要件及び履修方法

共通基盤教育科目：合計21単位
 必修 3単位、
 選択 18単位
 ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群2単位
 ・健康・スポーツ系 1単位
 ・英語基盤系 4単位
 ・言語応用系 3単位
 ・数理情報系 2単位
 専門教育科目：合計103単位
 必修 99単位
 ・専門基礎科目 48単位
 ・専門応用科目 51単位
 選択 4単位
 ・専門基礎科目、専門科目から選択
 任意科目：12単位
 卒業要件：4年以上在籍し、136単位以上修得すること。
 臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通 基盤 教育	スタディスキル	1前	1								兼1
	生命倫理	3前後	2								兼1
	暮らしの経済	1後・2前後	2								兼2
	日本国憲法	1後・2前後	2								兼2
	日本近現代史	1後・2前後	2								兼1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後	2								兼1
	アジアの文化と社会	1後・2前後	2								兼1
	少子高齢化と社会問題	1後・2前後	2								兼1
	マスメディア論	1後・2前後	2								兼2
	宗教と倫理	1後・2前後	2								兼1
	比較文化論	1後・2前後	2								兼1
	芸術論	1後・2前後	2								兼1
	社会参加とボランティア	1後・2前後	2								兼1
	国際化と異文化理解	1後・2前後	2								兼1
	現代社会の心理学	1後・2前後	2								兼3
	環境論	1後・2前後	2								兼2
	人文社会科学演習	3前後	2								兼3
	哲学	2後・3前後	2								兼2
	倫理学	2後・3前後	2								兼1
	文学	2後・3前後	2								兼2
	教育学	2後・3前後	2								兼1
	心理学	2後・3前後	2								兼2
	政治学	2後・3前後	2								兼2
	経済学	2後・3前後	2								兼2
	法学	2後・3前後	2								兼2
	社会学	2後・3前後	2								兼2
	企業と経営	2後・3前後	2								兼1
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1								兼2
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1								兼1
	レクリエーションスポーツ	2前	1								兼1
	生涯スポーツ実技	2後	1								兼1
	学外スポーツ	1-2-3-4	1								兼1
	英語Ⅰ	1前	1								兼1
	英語Ⅱ	1前後	1								兼4
	英語Ⅲ	1前後・2前	1								兼6
	英語Ⅳ	1後・2前後	1								兼7
	英語Ⅴ	2前後	1								兼7
	英語Ⅵ	2後	1								兼1
	英会話Ⅰ	1前	1								兼2
	英会話Ⅱ	1後	1								兼2
	総合英語演習	1前後	1								兼1
	TOEICⅠ	2後・3前	1								兼1
	TOEICⅡ	3前後	1								兼2
	文章表現技術	1後・2前	2								兼9
	プレゼンテーション技術	2前後	2								兼7
	技術文章の書き方	3前後	2								兼1
	身の回りの数学	1-2-3	2								兼1
	実感する科学Ⅰ	1-2-3	2								兼1
	情報リテラシー	1前	2								兼2
小計(49科目)	—	3	77		0	0	0	0	0	兼51	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医学概論	1前	2			1						
	解剖学	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	2			5	2		2			
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	生理学	1後	2			1						
	病理学	2前	2			1						
	生化学	2前	2									兼1
	免疫学	2後	2									兼1
	薬理学	2後	2									兼1
	看護学概論	2前	2									兼9
	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	1前	2			1						
	電気工学Ⅱ（遠隔現象、電磁気学）	1後	2			1						
	電気工学実習	1前	1			1						兼1
	電子工学Ⅰ（基礎）	2前	2				1					
	電子工学Ⅱ（発展）	2後	2				1					
	電子工学実習	2前	1				1					兼1
	医用電気電子工学実習	3前		1			1					兼1
	機械工学	1後	2			1						
	機械工学演習	1後	1			1						
	材料工学	2後	2			1	1					兼4
	計測工学	2前	2			1						
	応用数学	1前	2			1						
	応用数学演習	1前	1			1						
	医療統計学	2前		1		1						
	システム制御工学Ⅰ（基礎）	3前	2			1						
	システム制御工学Ⅱ（発展）	3後	2			1						
	システム制御工学実習	3前	1			1						
	情報処理工学	1後	2			1						
	情報処理工学実習	1後	1			1						
	医療情報セキュリティ	3前		2								兼1
	小計（30科目）	—	48	4		8	2		2			兼21
	医用工学概論	1前	2			1						
	生体計測機器学Ⅰ（基礎）	1後	2				1					
	生体計測機器学Ⅱ（発展）	2前	2			1						
	生体計測機器学実習	2前	2			7	2		2			
	生体物性工学	3後	2				1					
	医用機器学概論	1前	2			1						
	医用治療機器学Ⅰ（基礎）	2前	2				1					
	医用治療機器学Ⅱ（発展）	2後	2						1			
	医用治療機器学実習	2後	2			2	1		2			兼2
放射線概論	3後		2		1							
画像診断機器学	3後		2		1							
生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	2前	2				1					兼5	
生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	2後	2			1						兼5	
血液浄化装置学	2後	2			1							
呼吸療法装置学	3前	2				1						
体外循環装置学	3前	2						1				
生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	3後	2			2	1		2				
生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	3後	1			2	1		2				
医用機器安全管理学	3前	2				1						
医用機器安全管理学実習	3前	2			4			2			兼2	
関係法規	2後	2			1							
人間工学	2後		2		1							
臨床人間工学	3前		2		1							

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）	2後	2			1						兼3
	臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）	3前	2									兼2
	臨床医学総論Ⅲ（動物科学、手術看護学）	3後	2									兼2
	臨床検査概論	3後		2								兼1
	救急救命医学	3後		2								兼3
	チーム医療論	4前		2		5	1		2			兼2
	臨床実習	4前	4			3	1		2			
	臨床工学セミナー	4前		2		7	1		1			兼3
	卒業研究	4通	4			6	2		2			
	小計（32科目）	—	51	16		7	2		2			兼23
合計（111科目）	—	102	97		8	2		2			兼95	

卒業要件及び履修方法

共通基盤教育科目：合計21単位
 必修 3単位、
 選択 18単位
 ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群2単位
 ・健康・スポーツ系 1単位
 ・英語基盤系 4単位
 ・言語応用系 3単位
 ・数理情報系 2単位

専門教育科目：合計103単位
 必修 99単位
 ・専門基礎科目 48単位
 ・専門応用科目 51単位
 選択 4単位
 ・専門基礎科目、専門科目から選択

任意科目：12単位
 卒業要件：4年以上在籍し、136単位以上修得すること。

臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・「スタディスキル」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「日本国憲法」担当兼任教員辞退のため、3名から1名に変更。
- ・「国際化と異文化理解」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「教育学」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「心理学」担当兼任教員辞退のため、3名から2名に変更。
- ・「経済学」担当兼任教員辞退のため、3名から2名に変更。
- ・「英語Ⅱ」担当兼任教員追加のため、3名から4名に変更。
- ・「英語Ⅲ」担当兼任教員辞退のため、9名から6名に変更。
- ・「英語Ⅳ」担当兼任教員辞退のため、9名から7名に変更。
- ・「英語Ⅴ」担当兼任教員追加のため、5名から7名に変更。
- ・「英語Ⅵ」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「TOEIC」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「文章表現技術」担当兼任教員追加のため、6名から9名に変更。
- ・「プレゼンテーション技術」担当兼任教員追加のため、5名から7名に変更。
- ・「身の回りの医学」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「医用治療機器学実習」専任教員辞退のため、「教授3名」から「教授2名」、担当兼任教員辞退のため3名から2名に変更。
- ・「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」担当兼任教員を5名追加。
- ・「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」担当兼任教員を5名追加。
- ・「医用機器安全管理学実習」専任教員追加のため、「教授1名」から「教授4名」、担当兼任教員を2名追加。
- ・「臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）」専任教員「教授1名」を追加。
- ・「臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）」担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「臨床検査概論」専任教員辞退のため、「教授1名」から「教授0名」に変更。
- ・「チーム医療論」専任教員追加のため、「教授4名」から「教授5名」に変更。
- ・「臨床工学セミナー」専任教員辞任のため、「准教授2名」から「准教授1名」、「助教2名」から「助教1名」に変更。担当兼任教員3名を追加。
- ・「卒業研究」専任教員辞任のため、「教授7名」から「教授6名」に変更。

【令和3年度】

- ・「心理学」担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「英語Ⅲ」担当兼任教員追加のため、6名から7名に変更。
- ・「英語Ⅴ」担当兼任教員辞退のため、7名から6名に変更。
- ・「英語Ⅵ」担当兼任教員追加のため、1名から4名に変更。
- ・「文章表現技術」担当兼任教員辞退のため、9名から4名に変更。
- ・「プレゼンテーション技術」担当兼任教員追加のため、7名から8名に変更。
- ・「実感する科学Ⅰ」専任教員追加のため、「准教授1名」担当兼任教員辞退のため、1名から0名に変更。
- ・「基礎医学実習」専任教員辞任のため、「准教授2名」から「准教授1名」に変更。
- ・「病理学」専任教員追加のため、「教授1名」から「教授2名」に変更。
- ・「材料工学」担当兼任教員辞退のため、4名から3名に変更。
- ・「生体計測機器学実習」専任教員辞任のため、「准教授2名」から「准教授1名」に変更。
- ・「生体物性工学」専任教員担当変更のため、「教授0名」から「教授1名」、「准教授1名」から「准教授0名」に変更。
- ・「医用治療機器学Ⅰ（基礎）」専任教員担当変更のため、「准教授1名」から「准教授0名」、「助教0名」から「助教1名」に変更。
- ・「医用治療機器学実習」専任教員辞任のため、「准教授1名」から「准教授0名」、担当兼任教員追加のため2名から3名に変更。
- ・「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」専任教員追加のため、「教授0名」から「教授3名」、「助教0名」から「助教2名」、担当兼任教員辞退のため、5名から0名に変更。
- ・「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」担当兼任教員辞退のため、5名から0名に変更。
- ・「呼吸療法装置学」専任教員担当変更のため、「准教授1名」から「准教授0名」、「助教0名」から「助教1名」に変更。担当兼任教員1名追加。
- ・「体外循環装置学」担当兼任教員1名追加。
- ・「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」専任教員辞任のため、「准教授1名」から「准教授0名」に変更。担当兼任教員5名追加。
- ・「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」専任教員辞任のため、「准教授1名」から「准教授0名」に変更。担当兼任教員5名追加。
- ・「医用機器安全管理学」専任教員追加のため、「教授0名」から「教授3名」、「助教0名」から「助教2名」に変更。担当兼任教員1名追加。
- ・「医用機器安全管理学実習」専任教員担当変更のため、「教授4名」から「教授3名」、「准教授0名」から「准教授1名」、「助教2名」から「助教1名」に変更。
- ・「臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）」専任教員担当変更のため「教授0名」から「教授1名」、「助教0名」から「助教1名」に変更。
- ・「臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系・消火器等）」専任教員追加のため「助教0名」から「助教1名」に変更。
- ・「臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）」専任教員追加のため、「助教0名」から「助教1名」に変更。担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「チーム医療論」専任教員辞退のため、「教授5名」から「教授4名」に変更。担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「臨床実習」専任教員辞任のため、「准教授1名」から「准教授0名」に変更。
- ・「卒業研究」専任教員担当変更のため、「教授6名」から「教授7名」、「准教授1名」から「准教授0名」に変更。

【令和4年度】

- ・「日本国憲法」担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「法学」担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「英語Ⅳ」担当兼任教員辞退のため、7名から5名に変更。
- ・「英語Ⅴ」担当兼任教員追加のため、6名から7名に変更。
- ・「文章表現技術」担当兼任教員追加のため、4名から5名に変更。
- ・「実感する科学Ⅰ」専任教員担当変更のため、「准教授1名」から「准教授0名」、兼任教員追加のため、0名から1名に変更。
- ・「基礎医学実習」専任教員担当変更及び追加のため、「教授5名」から「教授4名」、「准教授1名」から「准教授2名」に変更。
- ・「病理学」専任教員担当変更、「教授2名」から「教授0名」、兼任教員追加のため、0名から2名に変更。
- ・「看護学概論」担当兼任教員辞退のため、9名から8名に変更。
- ・「医用治療機器学Ⅰ（基礎）」専任教員追加のため、「准教授0名」から「准教授1名」に変更。
- ・「医用治療機器学実習」専任教員追加のため、「教授2名」から「教授3名」、「准教授0名」から「准教授1名」、「助教2名」から「助教1名」、担当兼任教員3名から4名に変更。
- ・「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」専任教員担当変更のため、「教授3名」から「教授2名」、「准教授1名」から「准教授2名」、「助教2名」から「助教0名」に変更。
- ・「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」専任教員追加のため、「教授1名」から「教授2名」、「准教授0名」から「准教授1名」に変更。
- ・「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」専任教員追加のため、「教授2名」から「教授3名」、「准教授0名」から「准教授1名」、担当兼任教員追加のため、5名から6名に変更。
- ・「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」専任教員追加のため、「教授2名」から「教授3名」、「准教授0名」から「准教授1名」、担当兼任教員追加のため、5名から6名に変更。
- ・「医用機器安全管理学」専任教員追加のため、「教授3名」から「教授4名」に変更。
- ・「臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）」専任教員担当変更のため、「助教1名」から「助教0名」に変更。
- ・「臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）」専任教員担当変更のため、「助教1名」から「助教0名」、担当兼任教員追加のため、3名から4名に変更。
- ・「臨床実習」専任教員追加のため、「教授3名」から「教授4名」、「准教授0名」から「准教授1名」に変更。
- ・「卒業研究」専任教員担当追加のため、「准教授1名」から「准教授2名」に変更。

【令和5年度】

- ・指定規則の改正により、旧カリキュラム1年次配当科目である「スタディスキル」「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」「健康・スポーツ科学実習Ⅱ」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「身の回りの数学」「実感する科学Ⅰ」「情報リテラシー」「医学概論」「基礎医学実習」「公衆衛生学」「電気工学実習」「機械工学」「応用数学」「応用数学演習」「情報処理工学」の16科目は、履修該当者がいないため、未開講とする。
- ・「日本近現代史」担当兼任教員追加のため、1名から2名に変更。
- ・「芸術論」担当兼任教員辞退のため、1名から0名に変更し、未開講とする。
- ・「環境論」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「生涯スポーツ実技」担当兼任教員追加のため、1名から2名に変更。
- ・「英語Ⅲ」兼任教員担当科目変更のため、7名から6名に変更。
- ・「文章表現技術」担当兼任教員追加のため、5名から6名に変更。
- ・「プレゼンテーション技術」担当兼任教員辞退のため、8名から7名に変更。
- ・共通基盤教育科目担当兼任・兼任教員人数53名から48名に変更。
- ・「病理学」専任教員担当変更のため、「教授0名」から「教授1名」、兼任教員追加のため、2名から4名に変更。
- ・専門基礎科目担当教員小計「教授9名から6名」「准教授2名から1名」「助教2名から0名」に変更。兼任・兼任教員人数21名は変更なし。
- ・「生体計測機器学実習」専任教員担当変更のため、「教授7名」から「教授6名」、「准教授1名」から「准教授2名」、「助教2名」から「助教1名」に変更。
- ・「医用治療機器学実習」専任教員担当変更のため、「教授3名」から「教授2名」、担当兼任教員追加のため、4名から5名に変更。
- ・「放射線概論」専任教員辞退のため、「教授1名」から「教授0名」に変更。担当兼任教員追加のため0名から1名に変更。
- ・「呼吸療法装置学」専任教員追加のため、「教授0名」から「教授1名」に変更。
- ・「体外循環装置学」専任教員担当変更のため、「准教授0名」から「准教授1名」、「助教1名」から「助教0名」に変更。
- ・「医用機器安全管理学」専任教員担当変更のため、「教授4名」から「教授3名」、「助教1名」から「助教2名」に変更。
- ・「医用機器完全安全管理学実習」専任教員担当変更のため、「教授3名」から「教授2名」、「助教1名」から「助教2名」に変更。
- ・「臨床医学総論Ⅰ（外科・内科・感染症等）」兼任教員辞退のため、3名から2名に変更。
- ・「卒業研究」専任教員担当追加のため、「教授7名」から「教授8名」に変更。
- ・専門科目担当教員小計「教授9名から8名」、兼任・兼任教員人数29名から30名に変更。「准教授2名」「助教2名」は変更なし。
- ・担当教員合計「教授9名から8名」、兼任・兼任教員人数103名から99名に変更。「准教授2名」「助教2名」は変更なし。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

2 授業科目の概要

<健康医療科学部 臨床工学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基盤教育	スタディスキル	1前	1								兼2
	生命倫理	3前後	2								兼1
	暮らしの経済	1後・2前後	2								兼2
	日本国憲法	1後・2前後	2								兼3
	日本近現代史	1後・2前後	2								兼1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後	2								兼1
	アジアの文化と社会	1後・2前後	2								兼1
	少子高齢化と社会問題	1後・2前後	2								兼1
	マスメディア論	1後・2前後	2								兼2
	宗教と倫理	1後・2前後	2								兼1
	比較文化論	1後・2前後	2								兼1
	芸術論	1後・2前後	2								兼1
	社会参加とボランティア	1後・2前後	2								兼1
	国際化と異文化理解	1後・2前後	2								兼2
	現代社会の心理学	1後・2前後	2								兼3
	環境論	1後・2前後	2								兼2
	人文社会科学演習	3前後	2								兼3
	哲学	2後・3前後	2								兼2
	倫理学	2後・3前後	2								兼1
	文学	2後・3前後	2								兼2
	教育学	2後・3前後	2								兼2
	心理学	2後・3前後	2								兼3
	政治学	2後・3前後	2								兼2
	経済学	2後・3前後	2								兼3
	法学	2後・3前後	2								兼2
	社会学	2後・3前後	2								兼2
	企業と経営	2後・3前後	2								兼1
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1								兼2
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1								兼1
	レクリエーションスポーツ	2前	1								兼1
	生涯スポーツ実技	2後	1								兼1
	学外スポーツ	1-2-3-4	1								兼1
	英語Ⅰ	1前	1								兼1
	英語Ⅱ	1前後	1								兼3
	英語Ⅲ	1前後・2前	1								兼9
	英語Ⅳ	1後・2前後	1								兼9
	英語Ⅴ	2前後	1								兼5
	英語Ⅵ	2後	1								兼2
	英会話Ⅰ	1前	1								兼2
	英会話Ⅱ	1後	1								兼2
	総合英語演習	1前後	1								兼1
	TOEICⅠ	2後・3前	1								兼2
	TOEICⅡ	3前後	1								兼2
	文章表現技術	1後・2前	2								兼6
	プレゼンテーション技術	2前後	2								兼5
	技術文章の書き方	3前後	2								兼1
	身の回りの数学	1-2-3	2								兼2
	実感する科学Ⅰ	1-2-3	2								兼1
	情報リテラシー	1前	2								兼2
小計(49科目)	-	3	77		0	0	0	0	0	兼64	

【令和5年度】 新カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基盤教育	スタディスキル	1前	1								兼1
	生命倫理	1前	2								兼1
	暮らしの経済	1後・2前後	2								兼2
	日本国憲法	1後・2前後	2								兼3
	日本近現代史	1後・2前後	2								兼2
	ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後	2								兼1
	アジアの文化と社会	1後・2前後	2								兼1
	少子高齢化と社会問題	1後・2前後	2								兼1
	マスメディア論	1後・2前後	2								兼2
	宗教と倫理	1後・2前後	2								兼1
	比較文化論	1後・2前後	2								兼1
	芸術論	1後・2前後	2								兼0
	社会参加とボランティア	1後・2前後	2								兼1
	国際化と異文化理解	1後・2前後	2								兼1
	現代社会の心理学	1後・2前後	2								兼3
	環境論	1後・2前後	2								兼1
	人文社会科学演習	3前後	2								
	哲学	2後・3前後	2								
	倫理学	2後・3前後	2								
	文学	2後・3前後	2								
	教育学	2後・3前後	2								
	心理学	2後・3前後	2								
	政治学	2後・3前後	2								
	経済学	2後・3前後	2								
	法学	2後・3前後	2								
	社会学	2後・3前後	2								
	企業と経営	2後・3前後	2								
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1								兼1
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1								兼1
	レクリエーションスポーツ	2前	1								
	生涯スポーツ実技	2後	1								
	学外スポーツ	1-2-3-4	1								兼1
	英語Ⅰ	1前	1								兼2
	英語Ⅱ	1前後	1								兼4
	英語Ⅲ	1前後・2前	1								兼6
	英語Ⅳ	1後・2前後	1								兼5
	英会話Ⅰ	1前	1								兼2
	英会話Ⅱ	1後	1								兼2
	総合英語演習	1前後	1								兼1
	日本語表現技術	1後・2前	2								兼6
	プレゼンテーション技術	2前後	2								
	技術文章の書き方	3前後	2								
	情報リテラシー	1前	2								兼2
	小計(43科目)	-	5	68		0	0	0	0	0	兼40

【認可時又は届出時】

【令和5年度】 新カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医学概論	1前	2			1						
	解剖学	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	2			6	2		2			
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	生理学	1後	2			1						
	病理学	2前	2			1						
	生化学	2前	2									兼1
	免疫学	2後	2									兼1
	薬理学	2後	2									兼1
	看護学概論	2前	2									兼9
	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	1前	2			1						
	電気工学Ⅱ（遠隔現象、電磁気学）	1後	2			1						
	電気工学実習	1前	1			1						兼1
	電子工学Ⅰ（基礎）	2前	2				1					
	電子工学Ⅱ（発展）	2後	2				1					
	電子工学実習	2前	1				1					兼1
	医用電気電子工学実習	3前		1			1					兼1
	機械工学	1後	2			1						
	機械工学演習	1後	1			1						
	材料工学	2後	2			1	1					兼4
	計測工学	2前	2			1						
	応用数学	1前	2			1						
	応用数学演習	1前	1			1						
	医療統計学	2前		1		1						
	システム制御工学Ⅰ（基礎）	3前	2			1						
	システム制御工学Ⅱ（発展）	3後	2			1						
	システム制御工学実習	3前	1			1						
	情報処理工学	1後	2			1						
	情報処理工学実習	1後	1			1						
	医療情報セキュリティ	3前		2								兼1
小計（30科目）	—	48	4		8	2		2			兼21	
医用工学概論	1前	2			1							
生体計測機器学Ⅰ（基礎）	1後	2				1						
生体計測機器学Ⅱ（発展）	2前	2			1							
生体計測機器学実習	2前	2			7	2		2				
生体物性工学	3後	2				1						
医用機器学概論	1前	2			1							
医用治療機器学Ⅰ（基礎）	2前	2				1						
医用治療機器学Ⅱ（発展）	2後	2						1				
医用治療機器学実習	2後	2			3	1		2			兼3	
放射線概論	3後		2		1							
画像診断機器学	3後		2		1							
生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	2前	2				1						
生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	2後	2				1						
血液浄化装置学	2後	2			1							
呼吸療法装置学	3前	2				1						
体外循環装置学	3前	2						1				
生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	3後	2			2	1		2				
生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	3後	1			2	1		2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医学概論	1前	2			1						
	解剖学	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	2					5	1		2	兼1
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	生理学	1後	2				1					
	病理学	2前	2									
	生化学	2前	2									
	免疫学	2後	2									
	薬理学	2後	2									
	チーム医療論	4前	2									
	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	1前	2				1					
	電気工学Ⅱ（遠隔現象、電磁気学）	1後	2				1					
	電気工学実習	1前	1				1					兼1
	電子工学Ⅰ（基礎）	2前	2									
	電子工学Ⅱ（発展）	2後	2									
	電子工学実習	2前	1									
	機械工学	1後	2				1					
	機械工学演習	1後	1				1					
	計測工学	2前	2									
	応用数学	1前	2				1					
	応用数学演習	1前	1				1					
	医療統計学	2前		1								
	システム制御工学	3前	2									
	システム制御工学実習	3前	1									
	情報処理工学	1後	2				1					
	情報処理工学実習	1後	1				1					
	医療情報セキュリティ	3前		2								
	小計（27科目）	—	45	2		7	1		2			兼3
	医用工学概論	1前	2				1					
	生体計測機器学Ⅰ（基礎）	1後	2					1				
生体計測機器学Ⅱ（発展）	2前	2										
生体計測機器学実習	2前	2										
医用材料工学	2後	2										
医用電気電子工学実習	3前		1									
生体物性工学	3後	2										
医用機器学概論	1前	2				1						
医用治療機器学Ⅰ（基礎）	2前	2										
医用治療機器学Ⅱ（発展）	2後	2										
医用治療機器学実習	2後	2										
放射線概論	3後		1									
画像診断機器学	3後		1									
臨床支援技術学	3後	2										
生体機能代行技術学Ⅰ（基礎）	2前	2										
生体機能代行技術学Ⅱ（発展）	2後	2										
血液浄化技術学	2後	2										
呼吸療法技術学	3前	2										
体外循環技術学	3前	2										
生体機能代行技術学実習	3後		3									

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医用機器安全管理学	3前	2			1						
	医用機器安全管理学実習	3前	2			1			2			
	関係法規	2後	2			1						
	人間工学	2後		2		1						
	臨床人間工学	3前		2		1						
	臨床医学総論Ⅰ(内科、内科、臨床検査)	2後	2									兼3
	臨床医学総論Ⅱ(腎臓泌尿器系、消化器系等)	3前	2									兼2
	臨床医学総論Ⅲ(解剖科学、手術学)	3後	2									兼2
	臨床検査概論	3後		2		1						兼1
	救急救命医学	3後		2								兼3
	チーム医療論	4前		2		4	1		2			兼2
	臨床実習	4前	4			3	1		2			
臨床工学セミナー	4前		2		7	2		2				
卒業研究	4通	4			7	2		2				
小計 (32 科目)	-	51	16		7	2		2			兼13	
合計 (111 科目)	-	102	97		8	2		2			兼98	
卒業要件及び履修方法												
<p>共通基盤教育科目：合計 21 単位 必修 3 単位、 選択 18 単位 ・人文社会系 a 群 4 単位、b 群 2 単位、c 群 2 単位 ・健康・スポーツ系 1 単位 ・英語基盤系 4 単位 ・言語応用系 3 単位 ・数理情報系 2 単位</p> <p>専門教育科目：合計 103 単位 必修 99 単位 ・専門基礎科目 48 単位 ・専門応用科目 51 単位 選択 4 単位 ・専門基礎科目、専門科目から選択</p> <p>任意科目：12 単位 卒業要件：4 年以上在籍し、136 単位以上修得すること。</p> <p>臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。</p>												

【令和5年度】 新カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医療安全管理学	3前	2									
	医療安全管理学実習	3前	2									
	関係法規	2後	2									
	人間工学	2後		2								
	臨床人間工学	3前		2								
	臨床医学総論Ⅰ	2後	2									
	臨床医学総論Ⅱ	3前	2									
	臨床医学総論Ⅲ	3後	2									
	臨床検査概論	3後		2								
	救急救命医学	3後		2								
	臨床実習	4前	7									
	臨床工学セミナー	4前		1								
総合演習	4通	2										
卒業研究	4通	2										
小計 (34 科目)	-	69	1		2	0		0			兼3	
合計 (104 科目)	-	119	71		2	0		0			兼3	
卒業要件及び履修方法												
<p>共通基盤教育科目：合計 15 単位 必修 5 単位、 選択 10 単位 ・人文社会系 4 単位 ・健康・スポーツ系 1 単位 ・英語基盤系 2 単位 ・言語応用系 3 単位</p> <p>専門教育科目：合計 114 単位 必修 114 単位 ・専門基礎分野 45 単位 ・専門応用分野 69 単位</p> <p>卒業要件：4 年以上在籍し、129 単位以上修得すること。</p>												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

指定規則の改正に伴い令和5年度入学生から新カリキュラムに移行のため、

- ・1年次配当科目「スタディスキル」は、兼任教員1名にて開講する。
- ・1年次配当科目「生命倫理」は、配当年次を3年前・後期から1年前期に変更し開講する。
- ・1年次配当科目「日本近現代史」は、兼任教員2名にて開講する。
- ・1年次配当科目「芸術論」は、兼任教員担当辞退のため、令和5年度は未開講とし、令和6年度より開講予定とする。
- ・1年次配当科目「環境論」は兼任教員1名にて開講する。
- ・1年次配当科目「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」は、兼任教員1名にて開講する。
- ・1年次配当科目「英語Ⅰ」は、兼任教員2名にて開講する。
- ・1年次配当科目「英語Ⅲ」は、兼任教員6名にて開講する。
- ・1年次配当科目「文章表現技術」を「日本語表現技術」に科目名称変更し、兼任教員6名で開講する。
- ・「英語Ⅴ」「英語Ⅵ」「TOEICⅠ」「TOEICⅡ」「身の回りの数学」「実感する科学Ⅰ」は、当該学科の履修科目から除外する（配当しない。）

共通基盤科目に配置する上記以外の34科目の配当年次・単位数に変更はない。

共通基盤教育科目の小計49科目から43科目、必修3単位から5単位、選択77単位から68単位、令和5年度兼任・兼任教員数40名に変更する。

- ・1年次配当科目「基礎医学実習」は、「教授5名」、「准教授1名」、「助教2名」、兼任教員1名にて開講する。
- ・1年次配当科目「医学概論」「解剖学」「生理学」「公衆衛生学」「電気工学Ⅰ（直流回路・交流回路）」「電気工学Ⅱ（過渡現象・電磁気学）」「電気工学実習」「機械工学」「機械工学演習」「応用数学演習」「情報処理工学」「情報処理工学演習」「医用工学概論」「生体計測機器学Ⅰ（基礎）」「医用機器学概論」の16科目は、配当年次・単位数に変更はない。設置計画時の教員配置にて開講する。
- ・「看護学概論」（2年前期・必修2単位）は、科目を廃止する。
- ・「チーム医療論」は、専門応用科目・選択2単位から専門基礎分野・必修2単位に変更する。配当年次は変更なし。
- ・「医療統計学」は、選択1単位から必修1単位に変更する。配当年次は変更なし。
- ・「システム制御工学」（3年前期・必修2単位）を新設し、「システム制御工学Ⅰ（基礎）」（3年前期・必修2単位）、「システム制御工学Ⅱ（発展）」（3年後期・必修2単位）を廃止する。
- ・「医用電気電子工学実習」は、専門基礎科目・選択1単位から専門応用分野・必修1単位に変更する。配当年次は変更なし。
- ・「医用材料工学」（専門応用分野・2年後期・必修2単位）を新設し、「材料工学」（専門基礎科目・2年後期・必修2単位）を廃止する。
- ・「放射線概論」は、専門応用科目・選択2単位から専門応用分野・必修2単位に変更する。配当年次は変更なし。
- ・「画像診断機器学」は、専門応用科目・選択2単位から専門応用分野・必修2単位に変更する。配当年次は変更なし。
- ・「臨床支援技術」（専門応用分野・3年後期・必修2単位）を新設する。

- ・「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」を「生体機能代行技術学Ⅰ（基礎）」に科目名称を変更する。配当年次・単位数は変更なし。
- ・「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」を「生体機能代行技術学Ⅱ（発展）」に科目名称を変更する。配当年次・単位数は変更なし。
- ・「血液浄化装置学」を「血液浄化技術学」に科目名称を変更する。配当年次・単位数は変更なし。
- ・「呼吸療法装置学」を「呼吸療法技術学」に科目名称を変更する。配当年次・単位数は変更なし。
- ・「体外循環装置学」を「体外循環技術学」に科目名称を変更する。配当年次・単位数は変更なし。
- ・「生体機能代行技術学実習」（3年後期・必修3単位）を新設し、「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」（3年後期・必修2単位）、「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」（3年後期・必修1単位）を廃止する。
- ・「医用機器安全管理学」を「医療安全管理学」に科目名称を変更する。配当年次・単位数は変更なし。
- ・「医用機器安全管理学実習」を「医療安全管理学実習」に科目名称を変更する。配当年次・単位数は変更なし。
- ・「人間工学」は、専門応用科目・選択2単位から専門応用分野・必修2単位に変更する。配当年次は変更なし。
- ・「臨床人間工学」は、専門応用科目・選択2単位から専門応用分野・必修2単位に変更する。配当年次は変更なし。
- ・「臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）」を「臨床医学総論Ⅰ」に科目名称を変更する。配当年次・単位数は変更なし。
- ・「臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）」を「臨床医学総論Ⅱ」に科目名称を変更する。配当年次・単位数は変更なし。
- ・「臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）」を「臨床医学総論Ⅲ」に科目名称を変更する。配当年次・単位数は変更なし。
- ・「臨床検査概論」は、専門応用科目・選択2単位から専門応用分野・必修2単位に変更する。配当年次は変更なし。
- ・「救急救命医学」は、専門応用科目・選択2単位から専門応用分野・必修2単位に変更する。配当年次は変更なし。
- ・「臨床実習」は、専門応用科目・必修4単位から専門応用分野・必修7単位に変更する。配当年次は変更なし。
- ・「臨床工学セミナー」は、専門応用科目・選択2単位から専門応用分野・選択1単位に変更する。配当年次は変更なし。
- ・「総合演習」（専門応用分野・4年通年・必修2単位）を新設する。
- ・「卒業研究」は、専門応用科目・必修4単位から専門応用分野・必修2単位に変更する。配当年次は変更なし。

専門教育に配置する上記以外の17科目の配当年次・単位数に変更はない。

専門基礎の小計30科目から27科目、必修48単位から45単位、選択4単位から2単位、令和5年度は、専任教員「教授7名」、「准教授1名」、「助教2名」、兼任・兼任教員3名が科目担当する。

専門応用の小計32科目から34科目、必修51単位から69単位、選択16単位から1単位、令和5年度は、専任教員「教授2名」、「准教授1名」、「助教0名」、兼任・兼任教員3名が科目担当する。

授業科目の小計111科目から104科目、必修102単位から119単位、選択97単位から71単位、令和5年度は、専任教員「教授8名」、「准教授1名」、「助教2名」、兼任・兼任教員3名が科目担当する。

卒業要件および履修方法は、以下のとおり変更する。

- 共通基盤教育科目：合計21単位 → 合計15単位
- 必修 3単位 → 5単位、
 - 選択 18単位 → 10単位
 - ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群2単位 → 4単位
 - ・健康・スポーツ系 1単位 → 1単位（変更なし）
 - ・英語基盤系 4単位 → 2単位
 - ・言語応用系 3単位 → 3単位（変更なし）
 - ・数理情報系 2単位 → 0単位
- 専門教育科目：合計103単位 → 114単位
- 必修 99単位 → 114単位
 - ・専門基礎科目 48単位 → 専門基礎分野 45単位
 - ・専門応用科目 51単位 → 専門応用分野 69単位
 - 選択 4単位 → 0単位
 - ・専門基礎科目、専門科目から選択 → 削除

任意科目：12単位 → 0単位

卒業要件：4年以上在籍し、136単位以上修得すること。 → 卒業要件：4年以上在籍し、129単位以上修得すること。

臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

→ 削除

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
53 科目	58 科目	0 科目	111 科目	62 科目 [+9]	42 科目 [△16]	0 科目 [±0]	104 科目 [△7]	変更前のカリキュラムの授業科目と計画からの増減 必修：59科目〔±0〕、選択：58科目〔±0〕、 自由：0科目〔±0〕、計：111科目〔±0〕

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	芸術論	2	1後・2前後	一般	選択	兼任担当教員の辞任に伴い後任公募するも適任者の獲得が困難であったため。代替措置として次年度開講時の優先履修を案内予定である。
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

一般科目「芸術論」については、1・2年次の複数期開講科目として配置している科目であり、同科目群に15科目配置しているうちの1科目である。次年度開講時に優先履修可能とする措置を行う予定である。その周知については、臨床工学科のオリエンテーションおよびクラス担任から学生に伝えている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{111} = \boxed{0.9}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	87,669.16㎡	0 ㎡	0 ㎡	87,669.16㎡			
	運動場用地	38,015.93㎡	0 ㎡	0 ㎡	38,015.93㎡			
	小 計	125,685.09㎡	0 ㎡	0 ㎡	125,685.09㎡			
	そ の 他	8,818.66㎡	0 ㎡	0 ㎡	8,818.66㎡			
	合 計	134,503.75㎡	0 ㎡	0 ㎡	134,503.75㎡			
(2) 校 舎		専 用 99,533.35㎡ (98,308.56㎡)	共 用 ㎡ (㎡)	共用する他の 学校等の専用 ㎡ (㎡)	計 99,533.35㎡ (98,308.56㎡)	令和5年度新校舎完成 のため(5)		
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	77室	34室	94室	14室 (補助職員3 人)	1室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	健康医療科学部 臨床工学科			20 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	健康医療科学部 臨床工学科	905〔 10 〕 874 (905〔10〕) (874)	13〔 0 〕 (13〔 0 〕)	1〔 1 〕 (1〔 1 〕)	67 (67)	()	()	
	計	905〔 10 〕 874 (905〔10〕) (874)	13〔 0 〕 (13〔 0 〕)	1〔 1 〕 (1〔 1 〕)	67 (67)	()	()	
(6) 図 書 館	面 積	閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	5,021.54㎡	663席		232,000冊				
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	6706.61㎡	野球場1面、サッカー場1面、テニスコート4面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	238千円	203千円	図書購入費	277 千円	259 千円	274千円
	共同研究費等	10,761千円	10,200千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,660千円	1,480千円	1,500千円	1,520千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を**赤字で見え消し**修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に**赤字で記入**してください。
なお、昨年度の報告において**赤字で見え消し**した部分については、**見え消しのまま黒字**にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	神奈川工科大学									平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	2	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	収容定員充足率1.15倍以上の学科数
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考		
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度				
工学部															
機械工学科	4	120		480	学士(工学)	1.01	-				昭和50年度	神奈川県厚木市下荻野1030			
電気電子情報工学科	4	78		312	学士(工学)	1.19	-				昭和50年度	同上			
応用化学科	4	60		240	学士(工学)	0.81	-				昭和50年度	同上			
情報学部															
情報工学科	4	170		650	学士(工学)	1.07	-				平成15年度	同上			
情報ネットワーク・コミュニケーション学科	4	110		420	学士(工学)	1.22	-				平成16年度	同上			
情報メディア学科	4	180		690	学士(工学)	1.08	-				平成16年度	同上			
創造工学部															
自動車システム開発工学科	4	55		220	学士(工学)	0.79	-				平成20年度	同上			
ロボット・メカトロニクス学科	4	50		200	学士(工学)	0.94	-				平成20年度	同上			
ホームエレクトロニクス学科	4	40		160	学士(工学)	1.08	-				平成20年度	同上			
応用バイオ科学部															
応用バイオ科学科	4	125		500	学士(工学)	0.73	-				平成20年度	同上			
健康医療科学部													令和2年度学部学科再編(届出)		
看護学科	4	80		320	学士(看護学)	0.98	-				平成27年度	同上	看護学部看護学科から再編		
管理栄養学科	4	40		240	学士(栄養学)	0.92	-				平成22年度	同上	応用バイオ科学部栄養生命科学科から再編		
臨床工学科	4	40		160	学士(工学)	0.89	-				平成27年度	同上	工学部臨床工学科から再編		
大学全体		1,148		4,592											
工学研究科博前期課程															
機械工学専攻	2	14		28	修士(工学)	0.21	-				平成元年度	同上			
電気電子工学専攻	2	16		32	修士(工学)	1.27	-				平成元年度	同上			
応用化学・バイオサイエンス専攻	2	16		32	修士(工学)	0.77	-				平成元年度	同上			
機械システム工学専攻	2	14		28	修士(工学)	0.57	-				平成2年度	同上			
情報工学専攻	2	18		36	修士(工学)	0.91	-				平成5年度	同上			
ロボット・メカトロニクスシステム専攻	2	6		12	修士(工学)	0.58	-				平成22年度	同上			
工学研究科博後期課程															
機械工学専攻	3	2		6	博士(工学)	0.00	-				平成5年度	同上			
電気電子工学専攻	3	2		6	博士(工学)	0.16	-				平成6年度	同上			
応用化学・バイオサイエンス専攻	3	2		6	博士(工学)	0.33	-				平成5年度	同上			
機械システム工学専攻	3	2		6	博士(工学)	0.33	-				平成5年度	同上			
情報工学専攻	3	2		6	博士(工学)	0.50	-				平成8年度	同上			
大学院全体		94		198									大学院の修業年限は、修士課程2年、博士課程(後期)3年である。		

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・松田康広教授の「基礎医学実習」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・松尾崇教授に「病理学」、「医用機器安全管理学実習」を追加する。「基礎医学実習」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・鈴木聡教授に「医用機器安全管理学実習」、「臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）」を追加する。
- ・「血液浄化装置学」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・山家敏彦教授に「血液浄化装置学」を追加する。「基礎医学実習」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・渡邊紳一教授に「医用機器安全管理学実習」を追加する。
- ・馬嶋正隆教授の「医用治療機器学実習」、「卒業研究」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・木浦千夏子准教授の「臨床工学セミナー」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・渡邊晃広助教の「臨床工学セミナー」は、他の専任教員がいるため支障は無い。

【令和3年度】

- ・木浦千夏子准教授の辞任に伴い、「生体物性工学」は松田康広教授が担当、「基礎医学実習」は山家敏彦教授が担当、「卒業研究」は馬嶋正隆教授が担当、「生体機能代行装置Ⅰ（基礎）」「医用機器安全管理学実習」は大瀧保明准教授が担当、「医用治療機器学Ⅰ（基礎）」は西村宗修助教が担当、「呼吸療法装置学」は川崎路浩助教が担当、「医用治療機器学実習」「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」「チーム医療論」は兼任講師が担当、「生体計測機器学実習」「臨床実習」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・渡邊晃広助教の辞任に伴い、「基礎医学実習」「生体計測機器学実習」「体外循環装置学」「医用治療機器学実習」「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」「チーム医療論」「臨床実習」「卒業研究」は川崎路浩助教が担当、「医用治療機器学Ⅱ（発展）」は西村宗修助教が担当、「医用機器安全管理学実習」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・松尾崇教授に「基礎医学実習」「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」「医用機器安全管理学」を追加する。
- ・鈴木聡教授に「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」「医用機器安全管理学」を追加し、「臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）」は川崎路浩助教が担当する。
- ・山家敏彦教授に「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」「医用機器安全管理学」を追加する。
- ・渡邊紳一教授の「医用機器安全管理学実習」は大瀧保明准教授が追加する。
- ・河口進一教授に「医用機器安全管理学」を追加する。

【令和4年度】

- ・磯村恒教授の辞任に伴い、「システム制御工学Ⅰ（基礎）」「システム制御工学Ⅱ（発展）」「システム制御工学実習」は河口進一教授が担当する。
- ・令和4年4月専任教員就任深澤伸慈教授は、西村宗修助教の「医用治療機器学実習」、松尾崇教授の「医用機器安全管理学」「医用機器安全管理学実習」「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」、渡邊紳一教授の「チーム医療論」に加え「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」「臨床実習」「卒業研究」を担当する。
- ・令和4年9月専任教員就任予定の金大永教授は、松尾崇教授の「材料工学」「画像診断機器学」を担当する。
- ・令和4年4月専任教員就任酒井徳昭准教授は、松尾崇教授の「基礎医学実習」「卒業研究」、鈴木聡教授の「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」に加え、「医用治療機器学Ⅰ（基礎）」「医用治療機器学実習」「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」「チーム医療論」「臨床実習」を担当する。
- ・松尾崇教授、馬嶋正隆教授の「病理学」は兼任講師が担当する。
- ・西村宗修助教の「臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）」「臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）」は兼任講師が担当、「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」は他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・川崎路浩の「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」は、他の専任教員がいるため支障は無い。

【令和5年度】

- ・松田康広教授の旧カリキュラム科目「機械工学」「応用数学」「応用数学演習」は、該当履修者がいないため未開講とし、新カリキュラム科目の「機械工学」「応用数学」「応用数学演習」および新旧両カリキュラム科目の「機械工学演習」「情報処理工学」「情報処理工学演習」を担当する。「生体物性工学」は、金大永教授が担当する。
- ・松尾崇教授の辞任に伴い、「医用工学概論」「生体計測機器学Ⅱ（発展）」「生体計測機器学実習」「臨床工学セミナー」は金大永教授が担当し、「放射線概論」は兼任講師が担当する。
- ・鈴木聡教授の旧カリキュラム科目「基礎医学実習」は、該当履修者がいないため未開講とし、新カリキュラム科目の「基礎医学実習」および新旧両カリキュラム科目の「生体計測機器学実習」を担当する。
- ・山家敏彦教授の旧カリキュラム科目「基礎医学実習」は、該当履修者がいないため未開講とし、新カリキュラム科目の「基礎医学実習」および新旧両カリキュラム科目の「医用機器学概論」を担当する。「生体計測機器学実習」「関係法規」は、深澤伸慈教授が担当し、「医用治療機器学実習」は兼任講師が担当する。
- ・渡邊紳一教授の旧カリキュラム科目「医学概論」「基礎医学実習」は、該当履修者がいないため未開講とし、新カリキュラム科目の「医学概論」「基礎医学実習」および新旧両カリキュラム科目の「解剖学」「生理学」を担当する。
- ・河口進一教授の旧カリキュラム科目「電気工学実習」は、該当履修者がいないため未開講とし、新カリキュラム科目の「電気工学実習」および新旧両カリキュラム科目の「電気工学Ⅰ（直流回路・交流回路）」「電気工学Ⅱ（過渡現象・電磁気学）」を担当する。「病理学」を追加し、「医用機器安全管理学」「医用機器完全管理実習」は、酒井徳昭准教授が担当する。
- ・馬嶋正隆教授の旧カリキュラム科目「基礎医学実習」は、該当履修者がいないため未開講とし、新カリキュラム科目の「基礎医学実習」を担当する。
- ・深澤伸慈教授は、山家敏彦教授の「生体計測機器学実習」「関係法規」に加え、「呼吸療法装置学」および新カリキュラム科目の「基礎医学実習」を担当する。
- ・金大永教授は、松尾崇教授担当の旧カリキュラム「医用工学概論」「生体計測機器学Ⅱ（発展）」「生体計測機器学実習」「臨床工学セミナー」および松田康広教授の「生体物性工学」に加え、「卒業研究」および新カリキュラム科目「医用工学概論」を担当する。
- ・大瀧保明准教授の旧カリキュラム科目「基礎医学実習」は、該当履修者がいないため未開講とする。「医用機器安全管理学」「医用機器完全管理実習」は、川崎路浩助教が担当する。
- ・酒井徳昭准教授の旧カリキュラム科目「基礎医学実習」は、該当履修者がいないため未開講とし、新カリキュラム科目の「基礎医学実習」および河口進一教授の「医用機器安全管理学」「医用機器完全管理実習」、川崎路浩助教の「生体計測機器学実習」「体外循環装置学」を担当する。
- ・西村宗修助教の旧カリキュラム科目「基礎医学実習」は、該当履修者がいないため未開講とし、新カリキュラム科目の「基礎医学実習」を担当する。
- ・川崎路浩助教の旧カリキュラム科目「基礎医学実習」は、該当履修者がいないため未開講とし、新カリキュラム科目の「基礎医学実習」および大瀧保明准教授の「医用機器安全管理学」「医用機器完全管理実習」を担当する。「生体計測機器学実習」「体外循環装置学」は、酒井徳昭准教授が担当する。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**A C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
	6
12	
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
8	2	0	2	12	1	8	2	0	2	12	0
(8)	(2)	(0)	(2)	(12)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
8	2	0	2	12	0	8	2	0	2	12	0
[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[Δ1]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[Δ1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
70 65	3	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{12} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{12} = \boxed{25} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{1} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	准教授	木浦 千夏子	R3.3	必修	基礎医学実習	①	R3.3.31付け一身上の都合のため辞任（3）
				必修	生体計測機器学実習	③ ①	
				必修	生体物性工学	①	
				必修	医用治療機器学Ⅰ（基礎）	①	
				必修	生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	①	
				必修	呼吸療法装置学	①	
				必修	医用機器安全管理学	①	
				必修	医用治療機器学実習	②	
				必修	生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	② ①	
				必修	生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	② ①	
				選択	チーム医療論	② ①	
				必修	臨床実習	③ ①	
必修	卒業研究	①					
2	助教	渡邊 晃広	R3.3	必修	基礎医学実習	①	R3.3.31付け一身上の都合のため辞任（3）
				必修	生体計測機器学実習	①	
				必修	医用治療機器学Ⅱ（発展）	①	
				必修	体外循環装置学	①	
				必修	医用機器安全管理学実習	③ ②	
				必修	医用治療機器学実習	①	
				必修	生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	①	
				必修	生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	①	
				選択	チーム医療論	①	
				必修	臨床実習	①	
必修	卒業研究	①					
3	教授	磯村 恒	R4.3	必修	システム制御工学Ⅰ（基礎）	①	定年年齢を超過しての再雇用であったが R4.3.31付け一身上の都合のため辞任（4）
				必修	システム制御工学Ⅱ（発展）	①	
				必修	システム制御工学実習	①	

4	教授	松尾 崇	R4.8	必修	医用工学概論	①	定年年齢を超過しての再雇用であったが R4.8.31付け一身上の都合のため辞任(5)						
				必修	生体計測機器学Ⅱ(発展)	①							
				必修	生体計測機器学実習	①							
				選択	放射線概論	②							
				選択	臨床工学セミナー	①							
合計(F)			後任補充状況の集計(G)										
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)					
4	人	必修	28	科目	必修	26	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	3	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	32	科目	計	29	科目	計	3	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D)+(F)			後任補充状況の集計(E)+(G)										
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)					
4	人	必修	28	科目	必修	26	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	3	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	32	科目	計	29	科目	計	3	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{4}{12} = \boxed{33.33} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で**赤字**で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D)+(F)と同数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼任教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学の所見として、授業や国家試験の学習、臨床工学技士としての技術修得に影響ないように対応する。その周知については、臨床工学科のオリエンテーションおよびクラス担任から学生に伝えている。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画	
認 可 時 (令和2年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任職員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	【認可】 遵守事項 教員組織の将来構想に基づき、教授1名が退職し、教授1名と准教授1名を採用した。今年度中に教授1名が退職し、教授1名を採用することが決まっている。(4) 教員組織の将来構想に基づき、教授2名が退職し、教授2名と准教授1名を採用した。(5)	履行中	完成年度末までに教授1名が退職し、准教授1名が教授へ、助教2名が准教授へ昇任する予定である。新規採用として、教授1名を計画している。(4)(5)

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)(5)」と記載してください。

【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康医療科学部 臨床工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教務委員会（規程別添①）

教育開発センター運営委員会（規程別添②）

3つのポリシー運用委員会（規程別添③）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

教務委員会：月に1回（その他随時）会議を開催。委員として各学科より1～2名選出。

本学科より委員として1名参加。

教育開発センター：月に1回（その他随時）会議を開催。各学科より教育開発センター運営委員として1名参加。

3つのポリシー：年に2回（その他随時）会議を開催。各学科より学科長が運用委員として参加。

c 委員会の審議事項等

教務委員会：

- ・ カリキュラム、学籍、成績・進級・卒業、単位認定等の審議及び報告・連絡。

教育開発センター運営委員会：

- ・ 教育のPDCAの実施と検証に関わることがら。
- ・ 教員の教育力向上に関わることがら。

3つのポリシー運用委員会：

- ・ 3つのポリシーの策定・運用・評価・改善に関する事項。
- ・ 3つのポリシーに基づく到達目標・教育計画・入試計画の達成度評価に関する事項。

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 学士課程の構築
- ・ 授業方法について
- ・ 授業評価アンケート
- ・ 教員相互の授業参観
- ・ 新任教員のための研修会
- ・ 教職員研修会

b 実施方法

- ・ 教務委員会・教育開発センター・3つのポリシー運用委員会にて発案・協議され、その後大学協議会にて承認がなされ学長により決定される。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 授業アンケート：令和3年度前期、後期に各1回行った。
- ・ 教員相互の授業参観：対面で授業を公開した。
- ・ 教職員研修会：新型コロナウイルス感染症感染拡大のためオンラインで実施した。
- ・ 教員自己点検評価の実施：専任教員全員提出。令和4年12月に結果の解析・分析結果をまとめ冊子として冊子として配布。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、前期の多くの授業がオンライン授業、後期はほぼ対面授業となった。授業改善のため、学内・学科内で各教員の取り組みについて情報共有した。

例年は、授業アンケートの結果を各教員に報告し、授業方法の改善を促している。「授業改善ヒント集」冊子を作成し、全教職員に配布すること、評価の高い授業を授業参観に推奨すること、さらに教員研修会で学力向上に関するテーマを取り上げることにより、教員の授業力向上をはかり、学生の学力レベルアップを目指している。

学科内でカリキュラムチェックを行い、各科目のシラバスに反映させ、授業改善に取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

令和4年度 前期：7月19日（火）～8月1日（月）および後期：1月7日（土）～1月23日（月）の2回行った。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケートの大学全体の集計結果およびアンケート結果に対する教員のコメントをつけて「2022年度 より良い教育を目指して」と題する冊子を作成し、全教職員に配布するとともに学生も閲覧できるようにしている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

今日の高度な医療機器を適切に運用・操作するためには、医療に関する専門知識や技術のみならず、工学的専門知識や思考法をしっかりと身に付けている人材の育成が急務であるとの社会的要請に基づき本学科を設置した。医療従事者として必要となる幅広い視野や人間性を養い、臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を有し、チーム医療の中で役割を果たすことのできる人材の養成を教育の目的にしている。平成27年の設置以来、学生のこれまでの教育環境の違いから学力差があり、特に物理・数学科目に大きな差があった。よって全ての専門科目において、学生の理解度や学習困難点を毎回の授業で確認し、学科教員間で学生の状況を共有して教授法を工夫した。また、臨床工学技士の業務や臨床工学科での学びについて十分理解していない学生もみられ、専門科目を重ねることで臨床工学技士になる覚悟を持つよう指導した。学科FD活動として、半期ごとに、全教員の全担当科目について、授業の実施状況、試験・評価の状況、アンケート結果を報告し、改善のための討論を行っている。平成30年度から4年生に対して臨床実習と卒業研究の実施、就職情報提供と指導、国家試験対策演習の実施を行っている。令和4年度、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響はあったが、5～8月に臨床実習を実施することができた。令和5年3月に第5期卒業生を送り出した。

また、幅広い視野や人間性を養うために、外部医療施設・関係者との交流、学園祭での学生・教員協働による機器展示など、学生がいろいろな人と接する機会を積極的に設けている。教員の関わる学術大会では多くの学生がボランティアスタッフとして参加し、参加者から好評を得ている。令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、学園祭が学生と教職員の参加に限定された対面とオンラインでの開催となったが、学術大会は再開されてきており、学生の参加を再開していきたい。

令和2年4月、健康医療科学部に再編された。これまでの臨床工学科の教育を継続していくとともに、看護学科、管理栄養学科との連携により、地域社会における保健・医療・福祉サービスの発展と向上に貢献するための教育を進めている。令和3年12月には、看護学科・管理栄養学科と合同で、4年生を対象に他職種連携教育の特別講義を実施した。令和4年12月には、3学科の4年生全員が参加して、グループディスカッションと発表、討議を行い、他職種連携について理解を深めた。

令和5年3月、健康医療科学部教職員対象に、ハラスメントに対する学部共通の意識を涵養するために、ハラスメント防止講演会を実施した。

このように、設置目的に関しては、計画達成に向かって着実に歩んでいる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和5年6月末日

b 公表方法

・大学ホームページにて公開

評価機関（大学基準協会）の点検評価項目を満たした内容として、各年度の事業報告書を公表しており、是正・改善項目についても含まれている。

・自己点検・評価報告書を刊行し、教職員全員及び希望があった学生に各1冊を配布のほか、関連大学および厚木中央図書館へ配付。

③ 認証評価を受ける計画

・令和7年に評価機関（大学基準協会）の認証評価を受ける予定。

なお、平成30年に今回の設置届出に係る学部学科再編以前の、工学部臨床工学科として

評価機関（大学基準協会）の認証評価を受け、適合認定（認定期間：平成31年4月1日～令和8年3月31日）を受けている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。